

● 2003.9.8 インドガン初人工繁殖成功とその計画

中国で初めての野生インドガンの人工繁殖に成功

新華網. ラサ9月7日電 (記者 袁立華)

中国で初めてチベット山南地区野生インドガンの人工繁殖に成功した。現在 300 羽以上のインドガンが成長し、人々を喜ばせている。

チベット山南地区農牧局局長 王懷亭の紹介によると、インドガンは卵を放棄する習性があり、今年、山南農牧局職員が羊卓雍湖付近で 300 以上の放棄されたガンの卵を検卵し孵卵器で人工孵化したところ 99%の孵化率で孵化し、同時に孵化したインドガンの雛は 100%成長した。

現在の体重は平均して 2 kg.

インドガンはチベット高原特有のガンカモ類で、国家二級保護動物である。各地の生息環境が悪化し、個体数が急激に低下し、現在山南地区の羊卓雍湖に 30000 羽ほどが生息している。

● 2005年8月30日 ラサ 300羽リリース.

王懷亭によると、今回人工繁殖したインドガンは、将来大規模な繁殖を期待して一部を自然復帰させることとした。計画によると、今年の山南地区では 300 万元余の資金を調達し、野生インドガンの安全な生息環境を整備して、野生インドガン人工繁殖センターを建設することとした。

出所：新華網

200羽のインドガン大自然へ帰る。

2005.3.8 本報告記者 劉全洲

昨日、200羽のインドガンが今まで飼われていたケージを出て、ゆっくりと歩きながら、彼ら本来の大自然の家、拉魯湿地へ、その他の野生動物と共に自由な生活をする事となった。

午前 11 時、拉魯湿地国家級自然保護区で放鳥式が終わると、市の環境保護局職員がインドガン飼育ケージ前で彼らの健康状態を詳細に確認した後、扉を開き大自然へ放った。

インドガンは中国特有の渡り鳥で、チベット高原独特の種であり、チベット自治区二級保護動物でもある。今回の自然復帰活動の意味は、人々の動物保護、愛護の意識を高め、自然生態系の多様性の重要なことについて人々がさらに認識を深めることにある。同時に、自然復帰が成功すれば拉魯湿地のインドガンの個体群拡大と、生物多様性の維持、生態系の持続的発展に積極的な効果が期待される。

この度のラサニダ自然生態開発有限公司における 200 羽のインドガン人工飼育により拉魯湿地に数多く生息する多種類の野生動物と、自然復帰した 200 羽のインドガンが保護部門の指導によりこの環境のもとに増加することを、拉魯湿地国家級自然保護区の正式発足と共に祝賀したい。

● 飼育方法 2005年

インドガン休産期の飼育技術 2005.1.19

インドガンの飼育は簡単で、養殖による利潤も比較的高いが、繁殖率は低く、産卵期は短い。したがって、如何に産卵期を延長するか、如何に非産卵期のコストを低減するかが高利潤を産む鍵となる。以下にインドガンの休産期の飼育方法を紹介する。

1. 水面飼育を改める；インドガンは水面飼育すると清掃の手間ははぶけるが、水の汚濁が激

しく、ことに夏季、秋季には悪臭を伴い、インドガンの健康にも影響する。したがって、繁殖期後の7月から水槽を排水、洗浄、消毒し、他の養魚、水草の養殖などに使用し、これをインドガンの食用とする。この時インドガンは風通しのよい涼しい、乾燥した飼育舎で飼育し、翼の一部をカットする。翌年1月ガンが産卵期に入る前に再び水槽へ放ち、飼育する。

2. 補充照明の停止；インドガンは産卵を促すために、通常12月から夜の補充照明を行う。ただし、産卵が終わると照明を停止する。これによって産卵数が少なくなるのを防ぐためである。この外、産休期間はインドガンの肥満を防ぐため、青草による飼育を主とし、飼料コストの低減をはかる。このため秋に牧草の植え付けを必要とする。

3. 毎年種苗鳥の交換、飼料の節約；インドガンは毎年3～6月に産卵する。その他の月は成長期で、インドガンは一巢の産卵完了直後、産卵数の多い優秀なガンを除いて全部、商品として売却する。4月の下旬最後の雛が孵化後発育のよい雛を種苗用として残し、飼育9～10ヶ月後の2年目の春、この一群のインドガンは成熟して産卵をはじめ、孵化した雛のうち、半分は採卵用とし飼育し、たの半分は青草のみで飼育し、飼料の節約をはかる。

4. 衛生に注意、ワクチン接種；インドガンは病気に抵抗力が強いが、病気に罹るものがある。禽舎での飼育後、免疫力が低下しており、甚だしい環境汚染に曝されたり、家禽との交差感染により、発病率が高くなることがある。これらのために、繁殖期後にワクチン接種を行う。必要に応じ、鴨瘟*、家禽コレラ、大腸菌症などのワクチン接種を行う。同時に必要なことは禽舎の衛生的な管理、消毒である。水面による飼育は、水中の糞便、汚泥による水質汚染に注意し、とくに夏季の水の交換、水槽の消毒を徹底する。

広東省科学普及情報センター

訳注

- * 鴨瘟；特定の疾患として検索できなかったが、瘟疫とは下痢性伝染病の総称であることから、家禽コレラと共に重要な家禽の下痢性伝染病である雑白痢 (*Salmonell gallinarum-pullorum*) による疾患のことであろう。